

令和5年度 学校評価自己評価（前期）

鬼北町立日吉中学校

【評価基準】 A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
確かな学力	① ICT機器を効果的に活用し、分かる授業を実践している。	A	○それぞれの教員が、ICT機器や学習支援ソフトの効果的な活用に取り組んだ。 ○生徒は、ICT機器を活用した授業を好意的に受け止め、意欲的な学習につながった。 ○保護者も、生徒の学習内容の理解にICT機器の活用が効果的であると概ね受け止めていただいている。	◇今年度は新しい学習ソフトも導入され、週末の宿題においてタブレット端末を持ち帰って学習させる宿題なども継続して出すようにしている。 ◆生徒がタブレット端末を用いて宿題をするものには、学習の過程や結果が教師から確認できるものもある。そこから見い出される生徒個人の課題に対して、教師が適切に対応したり授業に生かしたりできるように努める。
	② 基礎・基本を定着させ、学びに向かう力を育てている。	B	○教師は少人数に対する学習指導ができる利点を生かし、理解度の底上げに努めている。 ○教師が「わかった」「できた」を実感できる授業に努めていることは生徒にも伝わっている。 ●保護者は、生徒が宿題以外の家庭学習に取り組めない点に不安を感じる割合が高い。	◇教員は、生徒の基礎・基本の定着を目指した分かりやすい授業に努め、それが生徒にも伝わっているため、これからもより授業改善に努めたい。 ◆学級委員会などが家庭学習についての情報を発信したり、自主学習ノートを宿題としたりするなど、宿題以外の学習をする手立てを生徒や保護者が理解しやすい方法を見い出す。
	③ じっくり考えて判断し、表現する力を育てている。	A	○一人一研究の学習では、自分で考えて表現する時間が増えているように思う。 ○学校通信やボランティア通信を通して、生徒の学習や活動の様子を紹介することは、保護者への啓発につながっていると思われる。	◇各教科等では、生徒が自分の考えをまとめ、発表や交流ができる場の設定をある程度行うことができている。今後も生徒が自己表現できる授業展開の工夫を心掛けていかなければならない。 ◆一人一研究の学習をはじめ様々な教育活動において、地域の方や専門的な知識のある方と積極的に交流する機会を持つことができる場の設定を行うことで、生徒が多様な考え方に触れ、表現する力を身に付けることができるように努める。
評価委員所見	<p>○少人数であることを利点とし、学びの基礎ができることが最大の強みになると思います。 ○子供が自発的に、学習でもスポーツでも取り組むためには、好きにならなければ難しいですね。きっかけづくりが課題になるのでしょうか。 ○中学校教育の実態に、保護者がついていけない状況もあるのでは。 ○学校のことはよく分からないが、これからも実践して行ってほしい。 ○②の項目では、将来自分がやりたいことをするために、基本は必要。 ○少人数での「一人一研究」は大変でしょうが、伝統を受け継ぎ、次に伝えていく大切さを学んでほしい。 ○学校訪問の機会がなく、実情の把握ができないが、広報やU-CATで拝見して積極的な活動の様子がかげえる。 ○ICT機器の活用が定着してきている。家庭学習にタブレットを利用すると、教師の採点時間の軽減になるのか。教師の目で確認し、フィードバックが個々にできるのが少人数のよさ。学力の底上げの成果はよい結果を招いている。 ○子供の学習への意欲は「分かった」「できた」の実感で高まっていく。少人数のよさを生かし、個々の能力に応じてICT機器を活用するなどして、生徒の「やる気」を引き出してほしい。 ○少人数の利点に対し、先生方も一生懸命取り組んでいただいていると思います。 ○すばらしい取組をされています。</p>			<p>対学校策の</p> <p>○少人数の利点を最大限に生かすため、それぞれの教師が生徒の特長や実態把握を行う。そして個別最適な学びにつながる指導方法の工夫に努める。 ○生徒が基礎・基本を定着させるためには、生徒の学習意欲を喚起するための授業展開を工夫するなどして、自ら学ぶ姿勢の育成に努める。 ○家庭学習の出し方や内容を工夫し、学習した内容が定着できるように工夫する。特に、ICT機器を用いた宿題の出し方について研修を深めていく。 ○ICT機器の活用は常態化してきた。しかし、効果的な活用方法や新しいソフトの導入などについて研修を重ね、より一層の利用を促進していく。</p>

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
豊かな心	④地域の文化や自然を学校教育に生かしている。	A	○教師・保護者・生徒ともに数値が高い。一人一研究での活動やその他学校行事での成果だと考える。	◇全校での取組や小中合同行事を通して、地域文化や自然に触れる機会を持つことができている。コロナ禍の制限も緩和されつつあるので、より一層の活動を推進するように努めていく。
	⑤将来への展望を持つよう学校生活の充実に努めている。	A	○各学年とも、学活の時間や日々の学習において、将来に見通しを持つための話をしたり、卒業後の進路を考える活動を行ったりできた。その結果として教師や生徒の評価が高いことにつながっている。 ●保護者は、子供が将来に夢を持つという点において、まだ将来像が描けていないと感じている人もいる。	◇鬼北町主催で広見中学校と合同で実施した「くるまざのミーティング」では、青年団の方と様々な話をし、将来を考えるきっかけとすることができた。 ◆キャリアパスポートへの記入は各学年でできているが、自分の将来の進路や生き方について具体的なイメージを持てるような手立てを考える必要がある。
	⑥挨拶や時と場に応じた言動が身に付くようにしている。	A	○教師・保護者・生徒ともに、挨拶がよくできていると感じている。 ●子供の言葉遣いに対して、時と場に応じた適切な言葉遣いがまだ十分であるとは言えないと感じている保護者もいる。	◇学校生活全般において、教師と生徒、生徒同士などの挨拶がよくできている。 ◆挨拶や会話の声が小さいことがある。時と場に応じた適切な声の大きさや言動について、継続的な指導に努める。
評価委員所見 学校関係者	<p>○小学校からの延長となる地域とのつながりもあり、年に応じた行動や考え方でよいと思います。 ○よくやられています。 ○⑤の項目では、子供は親が思っている以上にいろいろできます。 ○広見中学校と合同で行事を実施することはよいことだと思う。今後増やすことができればよい。 ○自分の将来像がはっきり見えてくるのは、高校生になってからだと思うが、それまでにたくさんの情報を提供してほしいと思う。 ○授業や部活動中の生徒の表情が明るい。教師への信頼度が高いように思う。心が安定しているからだと思う。 ○経験値が少ない生徒への将来像は、卒業生との懇談会の開催で補えるかも。 ○教師、保護者、生徒と、全てA評価でよい成果が表れている。今後も引き続き、様々な教育活動を通して豊かな心を育ててもらいたい。</p>			<p>対学 校 策 の</p> <p>○地域や小学校との交流をはじめ、他校との交流を積極的に行い、豊かな心の育成に努める。 ○地域の文化や自然に触れる機会の多い一人一研究や郷土学を通して、地域に思いをめぐらせたり、地域から学んだことを学校生活などに生かしたりできるような指導を心掛ける。 ○生徒が自分の将来を考えるきっかけづくりとして、高校進学やその後の進路に関する指導を計画的・継続的に行っていく。 ○自ら進んで気持ちのよい挨拶ができる生徒の育成に努めたい。</p>

キャリアパスポート・・・ 子どもたちが、小学校から高等学校までのキャリア教育（学校での学習が将来につながっていることを実感するための教育）に関わる活動について記入し、記録を保管したものです。

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
健やかな体	⑦「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化を図っている。	B	○教師は、朝の健康観察を継続して実施する中で、生活指導も行っていることから高い評価となっている。 ●「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身についていると感じていない保護者や生徒がある程度の割合でいる。	◇今後も引き続き、学級担任や養護教諭が中心となって、生活全般について指導することに努める。 ◆あゆみ指導や保健指導、各種通信を通じて、基本的な生活習慣の確立に向けた継続的な指導と家庭への呼び掛けに努める。
	⑧体力や運動技能の向上への取組を実践している。	A	○教師・保護者・生徒ともに高い評価を得ている。 ○部活動の取り組みは、生徒・保護者においても満足な活動ができている。	◇多くの生徒が積極的に部活動に参加し、体力向上に努めることができた。 ◆今後も、運動と休養とバランスを考えた部活動経営に努める。また、部活動以外でも、生徒が日頃から運動に親しむ習慣を身に付けるよう指導する。
	⑨自尊感情や自己肯定感を育てている。	B	○教師や保護者は、生徒のよさを認めることに努めていると実感している。 ●自分自身のよさを認めている生徒が多いものの、自分に自信を持っていない生徒が若干名いる。	◇教師は、将来に向けた進路指導や職業観についての指導を継続し、生徒の活躍の場も設定することを心掛けている。 ◆生徒が自分のよさや強みをより実感できるよう、より一層の活躍の場を設けたり、教育相談や日々の声掛けによる励ましを行ったりすることに努める。
評価委員所見 学校関係者	<p>○体力づくりについて、学校から家庭への発信がよく見られるので、親としても気を付けるきっかけがあり、助けられていると思います。</p> <p>○生徒数の減少と、共に行えることには限界はあります。日吉中学校の生徒はよく頑張っていると思います。</p> <p>○生徒の人数が少ないが、部活動などよく頑張っている。</p> <p>○部活動を通じて、体力づくりによく取り組まれています。</p> <p>○一日の活力源である「朝ごはん」をしっかりとってほしいし、保護者の方もしっかり作ってほしいものです。</p> <p>○少人数での学校教育は、想像以上にご苦労があることと思う。学校生活を通して、自分の居場所づくりができる生徒の育成に努めてほしい。</p> <p>○一部の生徒に、自分に自信が持てないとあるが、少人数のよさを生かして、全ての生徒が個性を発揮し輝けるように支援していただきたい。</p> <p>○学校では問題なく先生方も取り組んでいただいておりますが、家庭での不規則な生活等に悩みがある家庭もあると思います。</p> <p>○「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化は、家庭の教育力に影響されるが、定着のためには根気よい個別指導を。</p> <p>○部活動により肥満が解消されている。また、少人数でも成果を上げていることへの自分の努力や仲間を信じ、より自尊感情や自己肯定感の育成へつなげてほしい。</p>			<p>対学 校策の</p> <p>○生活指導、食に関する指導ともに、家庭との連携の重要性を認識した上で、心配なことがあれば保護者と相談を積極的に行う。</p> <p>○地域や関係機関との連携を密にして、生徒の健全育成に努める。</p> <p>○全ての生徒が部活動に参加し、体を動かしていることで、その学年に応じた体力がついてきている。大会や練習試合においても、保護者の協力を得て参加することができており、今後も協力体制を維持していきたい。</p> <p>○2学期は学校行事をはじめとして生徒の活躍する場が多くある。生徒一人一人が自尊感情や自己肯定感を高めることができる支援を行っていく。</p>

重点目標	評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇)
学校・家庭・地域の連携	⑩学校は教育活動についての情報を発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○行事ごとにホームページの更新を心掛け、実行できた。 ○各種通信も定期的に発行され、アンケートによる評価も高い。 ●学校で配ったプリントをきちんと見せていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域への情報発信として、U-CATによる情報発信を有効活用するための情報交換を積極的に行った。 ◆ホームページの更新が不定期であるので、日々の学校生活の様子も掲載できるように努力する。
	⑪行事等が適切に設定され、保護者が参加できている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な行事の設定ができ、コロナ禍以前の状態に戻りつつある。 ○保護者は、積極的に学校行事に参加できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇コロナ5類移行後も感染対策を継続しながら、学校行事を計画的に実施することができた。 ◆今後も保護者や地域への連絡を早めに行い、多くの参加が得られるように努める。
	⑫安心・安全な教育環境づくりに努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○施設・設備の日々の保守点検により、生徒・保護者・教師ともに高い評価となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒や教職員から施設・整備面に対する意見がある場合は早急に対応し、修繕を行うことができた。 ◆生徒や教職員が、安全・安心な学校生活を送ることができるよう、日頃から施設・設備の安全点検を行うとともに情報の収集に努める。
評価委員所見	<ul style="list-style-type: none"> ○各家庭の状況もそれぞれ異なるので、同一になることは難しいことであろうと思います。 ○高く評価します。 ○生徒数が減少した中で、教育活動の多様化は、地域住民の協力で維持できている。 ○学校の存続について、住民がもっと危機意識をもつ必要がある。 ○情報発信で、数字がやや100%を下回るものもあるが、他は全て100%と、日頃の取組がうまくいっている証となっている。これからもこの状況が続くように頑張ってもらいたい。 			<ul style="list-style-type: none"> 対学校策の ○地域への情報発信については、今後も各種通信やホームページ、ケーブルテレビなどの各種メディアを通して、タイムリーな情報提供に努めたい。 ○地域との連携は中学校の教育活動にとって必要不可欠である。今後とも地域との連携を密にした取組ができるように努めたい。 ○今後も、安心・安全な教育環境づくりに努めるとともに、生徒に対する安全教育にも取り組んでいく。